

登録有形文化財（建造物）

あらまさしゅぞう 新政酒造

- 1 対 象 新政酒造 ぎんじょうぐら みやうじょうぐら あいじょうぐら
吟醸蔵、明醸蔵、愛醸蔵
きゅうかんのんこうひがしもみぐらおよ こめぐら きゅうかんのんこうにしもみぐら
旧感恩講東粃蔵及び米蔵、旧感恩講西粃蔵
- 2 所在地 秋田県秋田市大町6-7-1ほか
- 3 所有者 新政酒造株式会社、佐藤卯兵衛
- 4 登録基準 一 国土の歴史的景観に寄与しているもの
- 5 説明

新政酒造は、秋田駅の南西側にある秋田市大町地区に位置する。県内最大河川である雄物川で運ばれた米が、旭川の川岸で荷揚げ・備蓄されたため、大町地区は古くから酒造業が盛んであった。新政酒造は、嘉永5年(1852)に旧四十間堀川反町しじっけんぼりかわばたまち(現大町の一部)に米問屋の佐藤卯兵衛うへえが創業した。酒銘の「新政」は、明治政府が施策の大綱とした「新政厚徳」しんせいこうとくに共感した卯兵衛が名付けたものである。大正元年(1912)に合名会社佐藤卯兵衛商店として、昭和28年(1953)に新政酒造株式会社として法人組織となった。

屋根の庇を大きく張り出す鞘屋根は、雪国である秋田の特徴を示している。また、旧感恩講東粃蔵及び米蔵と旧感恩講西粃蔵については、貧民救済施設「感恩講」の遺構としても大変貴重な建物である。

【吟醸蔵】

[明治中期、土蔵造平屋建、切妻造妻入、瓦葺、建築面積：94㎡]

敷地の南東角に位置する仕込蔵である。現在使われている酵母としては最古の「協会6号酵母」の蔵である。屋根周囲の鞘屋根や東側の上部窓にある鉄板葺きの庇は、方杖によって支えられている。通りから望見できる東側と南側の外壁には、鉢巻、水切、鎧壁の水平なラインが3段見られ、特徴的な外観となっている。構造は、中間部の小屋組は丸太の曲がり材を使い、端部の収まり部材も古い。明醸蔵と同時期に建てられたと思われる。

【明醸蔵】

[明治20年(1887)、土蔵造平屋建、切妻造妻入、鉄板葺、建築面積：163㎡]

敷地南側に位置する仕込蔵である。構造は、柱と貫を縦横に組み、小屋梁の上に立てた小屋束に4尺幅の背の高い天秤梁を乗せて、杉の丸太材の地棟を受けている。妻側に加えて中間部も同様の天秤梁がもちいられる珍しい形式である。

【愛醸蔵】

[明治中期、土蔵造平屋建、切妻造妻入、瓦葺、建築面積：116㎡]

敷地中央部に位置する。外壁西側の破風部分に、「山にウ」の屋号が描かれているのが特徴的である。小屋組には巨大な曲がり梁を用いられている。明醸蔵と同時期に建てられたと思われる。

【旧感恩講東靱蔵及び米蔵】

〔明治後期、土蔵造平屋建、切妻造妻入、瓦葺、建築面積：277㎡〕

文政12年（1829）に設立された、貧民や孤児など社会的弱者を救済する施設「感恩講」の米蔵と靱蔵であった。感恩講は、明治から大正にかけて皇族や帝国の役人など著名人が視察に訪れるなど国に高く評価されていた。また、明治時代に帝国法律顧問だったボアソナードがその活動を賞賛したように、国際的に見ても画期的な組織であった。

瓦葺き屋根の周囲には、亜鉛メッキ鋼板葺の鞘屋根が木材の方杖によって取り付けられている。旧感恩講西靱蔵と建築年代も同時期と考えられる。いずれの建物も木材の変色が少なく、ヒバ材と思われる共通の部材を使用しており、屋根の形式や軒を受ける方杖と受け金物及び肘木なども同じである。

【旧感恩講西靱蔵】

〔明治後期、土蔵造平屋建、切妻造妻入、瓦葺、建築面積：166㎡〕

敷地の北西角に位置する。瓦葺き屋根の周囲には、亜鉛メッキ鋼板葺の鞘屋根が木の方杖によって取り付けられている。小屋組は、小屋梁と2階床梁を天秤梁で受け、その間を筋違いで固めている。さらに、2階床組、小屋組ともに、水平斜材をダイナミックに架け渡している。



吟醸蔵



旧感恩講西靱蔵